

---

## 11. シマントプロジェクトー賃貸コレクティブハウジング構想ー（継続2年目）

SHIMANTO PROJECT

（大阪府大阪市）

---

### 1. 活動の背景と目的

シマントプロジェクト（賃貸コレクティブハウジング構想）も1996年5月に発足し早、3年が過ぎようとしている。大阪市北区の老朽化ビル建て替え計画は、建物を建てる前に入居者を先に募り、建物提供者と入居者と共に創りあげようという試みである。言い換えれば、「人の暮らし方に合う住まいづくり」を目指しているのだ。従って、住まい手同士が知り合い、より良い関係性を築かなければ創れないと言っている。そこでワークショップ形式でお互い話し合う機会を多くし、個々の価値観や思いを反映させる場が欠かせないのだ。

### 2. 活動の内容

●第8回ワークショップ：1998. 5. 31 入居希望者数 10名

テーマ

「共用スペースのイメージづくりを楽しもう！」

ねらい

共用スペース（キッチン・リビング）にどれだけの思いをイメージできるか。

キッチンの備品（流し・コンロ・冷蔵庫・食器棚・照明器具など）や、リビングの家具（床・窓・テラス・机・椅子・本棚・ピアノなど）の写真を模造紙に貼りつけてイメージをふくらませ、個人のスペースではできない設備やインテリアをみんなで話し合った。キッチンには外へ出るドアを取り付けて、生ゴミをコンポストで再利用する発想や、流し台などの設備が清掃しやすくするために移動が可能なものにすること。（専門家がいなかったので可能なかは考えないことを前提にしている。）また、リビングから庭がすぐ通じていて、更にもうその上、露天風呂があるというイメージまでひろがった。

はじめて、具体的なハード面を考えるワークショップだったので、おもしろかったのか時間が足りないという声も多く聞かれた。全体的な感想として、自分の意見を主張して他の人の意見に耳を貸す姿勢に乏しい人が居たために、言えなくなってしまう場面も少し気にはなっているが、これも話し合いの回数を増やし、互いに意見のキャッチボールをしていくことの大切さに、気づいてもらえるようにもっていきたい。



共用スペースのイメージづくり

●第9回ワークショップ：1998. 9. 19 入居希望者数 7名

テーマ

「共用スペース（キッチン・リビング）の使い方をみんなで考えようよ！」

ねらい

共用スペースでの共同の食事がどれだけイメージできるのか。

3日間（16.17.18）の食生活のアンケートに答えてもらいながら、食についてどんな考えをもっているのかも話してもらった。参加者の多くが食に重きをおいていないことがわかり、共同の食事で豊かな食生活が可能になることまでも話は深められた。

しかしマイナスイメージとして、食事作りや掃除の当番ができるのかという疑問の意見もでた。そこで毎日共同の食事をする必要もないことを私の方から提案させてもらうと、それからは前向きに考えられ、使う度に個々で最低限度の後片づけや掃除をし、週に一回の共同の食事と掃除は参加者全員が分担して行うことなど、建設的な答えが飛び出した。

一般の参加者からは、週一回の共同の食事参加できない時はどうするのか、という意見もだされ、ルールは守るためだけのものではなく、みんながよりよく暮らしていけるものを目指すものなので、その都度問題点をみんなで出し合い、変えていけばいいことも話し合えた。

今回のワークで、共に暮らすイメージがそれぞれ少しずつ異なっているように感じたので、次回のワークでは、テーマ（共に暮らすとはどういうことなのか？）について、もう一度初心に戻り、共通認識しなければならぬ大切な事柄を、みんなで模索し合いたいと思う。

●コモンズフェスタ' 98：1998. 11. 14

テーマ

「私にとって精神的自立ってな～に?!」

ねらい

精神的自立は自分と向き合うことでしか得られないことを知ることと、同時に他人との距離を保つことでしかつくりだせないことも考え合う。

自立した人同士でないと共に暮らすことは難しいことは頭では理解しているものの、自分のものとなっていないことが多く、一度入居希望者に考えてもらう機会をつくりたかった。テーマが重かったなので、気楽に話し合えるように、映像や芝居を提示してわかりやすいように工夫をした。

<参加者の意見>

- ◇人に頼っていくことは自立とはいわないが、助け合うことは自立した人ができることである。
- ◇相手にも自分にも誠実に生きること。
- ◇人とどれだけ距離が保てるか。
- ◇自己主張と相手の意見とのバランスの取り方ができるか。  
(ケンカができる関係。)



芝居の場面

- ◇人間関係をつくる中で精神的自立は存在するもの。
- ◇個の確立があって精神的自立がはかれる。(同質性を求めない。)

●すみあいっこ関西第4回例会：1999. 2. 11

土地・建物提供者コーナーへのブース参加。

模造紙展示(3つのコンセプト)・趣意書(1999. 2. 5作成分)・しまんとだより

劇(すみあいっこ関西ドタバター座)の「民主的な家主」役として山崎(代表者)が参加する。

●第10回ワークショップ：1999. 3. 7 入居希望者 6名

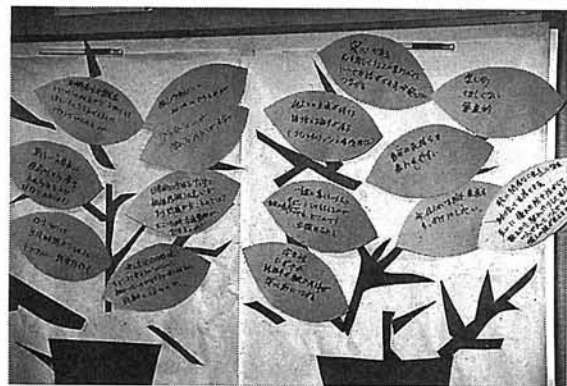
テーマ

「共に暮らすってどういうこと？」

ねらい

共に暮らすためには、現在の生活を変換させながら創りあげていく大変な作業があることを自覚しつつも、同時に豊かな関係性が築けることに気づいてもらう。

質問カード(「あなたにとって共に暮らす良いイメージとは何ですか。」「不安や問題点などを書いてください。)」で出された意見を、葉の形の色画用紙に書き、「いいな」の木と「問題かな」の木の枝にそれぞれ貼り、その事柄について話し合った。



「いいな」の木、「問題かな」の木

<「いいな」の意見>

- ◇年齢・立場の違い(高齢者・障害者・健全者)を活かして、互いに助け合える生活が可能。
- ◇ひとりであってひとりでない安心感やあたたかさ。
- ◇志(共に暮らす)が同じ人の集まりなので、話し合える関係性がつくりやすい。

<「問題かな」の意見>

- ◇日常的な生活の中での価値観の違いや、生活時間によるトラブルとその問題の交通整理ができるのか。
- ◇経済的格差があっては共生は無理ではないか。
- ◇手助けしてほしい人と、力を出せる人とのバランスがとれるのか。
- ◇個人のプライバシーの確保がどこまでできるのか。  
(人との距離のとり方、保ち方)
- ◇細かいルールがどこまで守り合えるのか。

今回のワークに高齢者の方が初めて参加され、真摯で前向きな意見を出して下さり、漠然と考えて参加していた人たちに刺激を与えた結果となった。そして、互いに助け合える安心感を得るためには、今までの価値観をそのまま「しまんと」に持ち込んでも上手くはいか

ないが、新しい価値観（共に暮らす）をみんなで目指すなら、今までもっていた価値観をある程度柔軟に変えることも可能ではないか、という意見までこぎつけることができたことは大きな成果だ。

### 3. 活動の効果および今後の課題

1999年1月大阪市北区老朽化ビルの建て替え計画はメドがたたなくなり、大阪市港区でシマントプロジェクトを引き続き行うこととなった。1階障害者による作業所、2階保育園のプランは不可能となったものの、利便の良い場所での賃貸コレクティブハウジング構想には変わりはなく、入居希望者大半が脱落しなかった結果をみても、シマントへの関心の高さはうかがえる。それは、人は建物に合わせて住まうのではなく、シマントの目指している、人の住まい方に合う建物の供給があってこそ、初めて「住まい」が創られるという、本来あるべき姿に気づき始めたということではないだろうか。

また、シマントの3つのコンセプト（①高齢者・障害者・シングルマザー・シングル・子ども・健常者が共に棲み合う。②自然にも人にもやさしい住まい。③ワークショップを通してつながりを深める。）が浸透し、賛同者の輪も広がり、ワークショップの回を重ねる毎に、新しい入居希望者が参加するという嬉しい状況もある。

今後の課題としては、入居者を決定し、共用スペースの間取りや設備、運営の仕方やルールにいたるまでさまざまな「住まい」のあり方を、ヒアリングやワークショップを通して、更に創りあげていかなければならない。

紆余曲折さまざまな苦難も起こり得るであろう。しかし「しまんと」のような「住まい」を必要としてくれる人たちがいるかぎり、SHIMANTO PROJECTはすすめていけるのだ。そして、地域の人々ともつながりをもてるような、地域に根ざすことも忘れてはならないと、決意を新たにしている。

助成してくださったハウジングアンドコミュニティ財団へ感謝！